

消防職員 専科教育

第38期救助科を実施しました

[期間] 令和6年9月5日（木）から10月7日（月）まで
21日間（168時限）

[会場] 埼玉県消防学校

[到達目標] 救助活動に係る最新の専門知識、高度な技能及び技術を
備え、これらを活用した応用力を十分に発揮できる。
また、救助活動及び救助訓練に必要な健康管理ができる。

[教育対象] 救助業務に従事させようとする者で、初任教育修了者か
つ採用後3年以上の消防経験を有する35歳以下の者（入
校日現在）

[修了者] 26消防本部（局）60名



第38期救助科 日課表

月 日	曜日	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限	備 考	特記事項		
		8:40～ 9:30	9:30～ 10:20	10:40～ 11:30	11:30～ 12:20	13:20～ 14:10	14:10～ 15:00	15:20～ 16:10	16:10～ 17:00				
9月5日	木	行事その他	講話/その他			安全管理			その他		・入校日		
		入校式	救助隊員の心構え/校内服務			安全管理Ⅰ/熟中症対策			校内服務				
		担当教官	総括教官/助教官			担当教官							
9月6日	金	災害救助対策			安全管理		その他(合同)				・帰宅日		
		救助関係法令		広域連携		訓練上の安全管理	基本行動・救助員点検						
		担当教官			副総括教官		消防本部支援教官						
9月9日	月	救助器具取扱訓練(技能確認)											・登校日
		1小隊(結索・縛帯・かぎ付・三連・ワイヤはしご)					2小隊(確保・登はん・降下・一般救助用器具)						
		消防本部支援教官											
9月10日	火	救助器具取扱訓練(技能確認)											
		2小隊(結索・縛帯・かぎ付・三連・ワイヤはしご)					1小隊(確保・登はん・降下・一般救助用器具)						
		消防本部支援教官											
9月11日	水	災害救助対策		救 急(合同)									
		熊本地震		多数傷病者発生時の対応要領									
		熊本市消防局		消防本部支援講師									
9月12日	木	救助訓練											
		検索救助・搬送訓練(第1小隊)			施設設定訓練(第1小隊)		検索救助・搬送訓練(第2小隊)			施設設定訓練(第2小隊)			
		消防本部支援教官											
9月13日	金	救助訓練											・帰宅日
		高所からの火災救助訓練(第1小隊)				宙吊り救助訓練(第1小隊)							
		宙吊り救助訓練(第2小隊)				高所からの火災救助訓練(第2小隊)							
9月17日	火	救助訓練											
		はしご水平救助(二)訓練(第1小隊)					一箇所吊り担架水平救助訓練(第1小隊)						
		一箇所吊り担架水平救助訓練(第2小隊)					はしご水平救助(二)訓練(第2小隊)						
9月18日	水	救助訓練											・登校日
		立坑・はしごクレーン救助訓練(第1小隊)					斜めブリッジ救助訓練(第1小隊)						
		斜めブリッジ救助訓練(第2小隊)					立坑・はしごクレーン救助訓練(第2小隊)						
9月19日	木	救助訓練/安全管理					災害救助対策						
		航空救助/安全管理Ⅱ					電車事故対応		浸水域の活動要領				
		埼玉県防災航空隊					JR		坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部				
9月20日	金	総合訓練(合同)					救助訓練(合同)						・帰宅日
		交通救助想定訓練					交通事故における救助						
		消防本部支援教官					船山株式会社						
9月24日	火	安全管理		総合訓練(合同)									・登校日
		火災時における安全管理		火災想定訓練									
		担当教官		消防本部支援教官									
9月25日	水	救助器具取扱訓練(合同)				総合訓練(合同)							
		高度救助用器具取扱訓練				震災救助							
		埼玉県南西部消防局											
9月26日	木	総合訓練(合同)											
		各種救助事象における想定訓練Ⅰ											
		消防本部支援教官											
9月27日	金	その他		総合訓練(合同)									・安全管理の日 ・帰宅日
		安全祈願		各種救助事象における想定訓練Ⅱ									
		全職員		消防本部支援教官									
9月30日	月	災害救助対策				救助器具取扱訓練(合同)							・登校日
		急流救助対策		山岳救助対策		都市型救助資機材取扱							
		秩父消防本部・NN		埼玉西部消防局		さいたま市消防局							
10月1日	火	救助器具取扱訓練/総合訓練 校外研修:山岳救助(第1小隊)											校外研修
		救助器具取扱訓練/総合訓練 校外研修:急流救助(第2小隊)											
		山岳救助/埼玉西部消防局					急流救助/ネイチャーナビゲーター 秩父消防本部						
10月2日	水	救助器具取扱訓練/総合訓練 校外研修:山岳救助(第2小隊)											校外研修
		救助器具取扱訓練/総合訓練 校外研修:急流救助(第1小隊)											
		山岳救助/埼玉西部消防局					急流救助/ネイチャーナビゲーター 秩父消防本部						
10月3日	木	効果測定(合同)				総合訓練(合同)							夜間訓練 18時～20時
		実技				分隊活動効果確認							
		消防本部支援教官											
10月4日	金	災害救助対策		効果測定(合同)		災害救助対策							・帰宅日
		土砂災害対策		座学		事例研究							
		上尾市消防本部		担当教官		消防本部支援教官							
10月7日	月	その他		災害救助対策				健康管理		行事その他			・修了日
		事務連絡		救助活動と活動事例				ベップトーク		修了式			
		担当教官		外部講師				トレーナーズスクエア株式会社		担当教官			



基本行動・救助員点検



技能確認



技能確認



救急（多数傷病者発生時の対応要領）



高所からの火災救助訓練



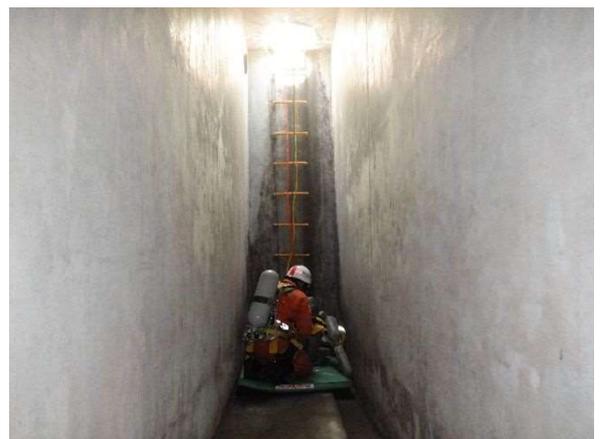
宙吊り救助訓練



はしご水平救助（二）訓練



一箇所吊り担架水平救助訓練



立坑・はしごクレーン救助訓練



斜めブリッジ救助訓練



航空救助訓練



交通救助想定訓練



火災想定訓練



震災救助訓練



震災救助訓練



想定訓練Ⅰ



想定訓練Ⅱ



都市型救助資機材取扱



山岳救助訓練



急流救助訓練



夜間訓練





夜間訓練



土砂災害対策



事例研究

修了しての感想

21日間の救助科を振り返るとあっという間の1日の積み重ねで、非常に内容の濃い時間でした。

これまで感じたことのない感覚と緊張感、また、

全ての訓練を終了した今、大きな達成感でいっぱいです。

救助科で学んだことを糧とし、要救助者の人生まで救助できるように熱い気持ちと温かい心で救助の道を突き進みます。

全ての方々に感謝。最高の第38期救助科をありがとうございました。



後輩へのメッセージ

教官、学生、全ての人間が全力でやり切る救助科、人生でこんな経験をできる機会はなかなかありません。全ての日程が修了した後には最高の景色を見ることができ、最高の財産を手に入れます。これまでの先輩方が築き上げてくれた伝統ある埼玉県消防学校救助科のバトンを第39期救助科学生の皆さんへつなぎます。期は違えども心は一つ「和衷協同・人命救助」

修了しての感想

21日間という期間でしたが、終わってみればとても早く、あっという間に過ぎていました。その中で、基本訓練、想定訓練、山岳、急流とたくさん貴重な経験をさせていただきました。熱い気持ちを持った教官、助教官、そして仲間との訓練は忘れられない思い出となりました。救助科修了者という自覚を持ち、熱い気持ちを持って訓練に励み、市民の期待に応えられる救助隊員になるため、日々精進していきます。



後輩へのメッセージ

失敗を恐れず、思いっきりやりましょう。同じ志を持った仲間が必ずサポートしてくれます。あっという間に過ぎてしまうため、後から後悔してほしくありません。仲間と和衷協同し、達成することが最高の思い出になります。全力で取り組み、埼玉救助を盛り上げていきましょう。

修了しての感想

第1小隊副総代としての役割を任された際には不安もありましたが、同期や指導教官の支えにより無事に役目を果たすことができました。救助隊員



としての知識や技術はもちろん、体力、精神力も鍛えられ、リーダーシップとフォロアーシップの大切さを学ぶことができました。途中でけがを負い、思うように動けない悔しさもありましたが、仲間と共に励まし合いながら乗り越え、最後までやり遂げることができました。今後もこの経験を糧に、救助隊員として成長を続けていきたいと思えます。

後輩へのメッセージ

これから救助科に入校する皆さんへ、私から伝えたいことは一つ「仲間を信じ、共に成長する」という姿勢を大切にしてください。救助科の訓練は厳しいものですが、一人では成し遂げられないことも同期と支え合い、励まし合うことで乗り越えることができます。また、自分の役割に責任を持ちつつ、フォロアーシップも発揮して、チーム全体の成功を目指してください。挫けそうな時もあるかもしれませんが、仲間や指導者の力を信じ、自分を信じてください。その経験が必ずあなたの未来につながります。

修了しての感想

第38期救助科を終えて、「最高の仲間」と「命の大切さ」を改めて学ぶことができました。辛い訓練でも常に声を掛けてくれる仲間、苦手なところはみんなで支え合う。そして要救助者を必ず助けるという目的にみんなで話し合い、努力できた21日間でした。ここまで成長できたのも救助科へ送り出してくれた所属、家族、そして最高の訓練環境を整えてくれた学校教官、支援教官のお陰です。本当に感謝の言葉しかありません。全てのことに関わってくださった方へ「ありがとうございました。」



後輩へのメッセージ

辛く、大変そうな救助科のイメージ……。それは違います。最高の仲間と出会うことができ、最高の訓練ができる。こんな環境は二度と味わうことはできません。皆さんがいつ入校できるか分かりませんが、今できることを全力で取り組む。そしていつか救助科へ入校でき、最高の仲間と出会うことができる。それを信じ、常に全力で取り組んで欲しい。